

8th European Symposium on Plant Lipids に参加して

広域科学専攻 生命環境科学系

博士課程3年 毛利奈津美

(佐藤直樹研究室)

私は「博士・修士課程学生のための国際研究集会渡航助成」の支援を受けて、2017年7月2-5日にスウェーデン・マルメで開催された8th European Symposium on Plant Lipidsに参加しました。この学会は植物脂質を専門にする研究者が集まるシンポジウムで、ヨーロッパだけでなくアメリカやアジアからも多くの研究者が参加していました。

私は「Analysis of Lipid Synthesis in Isolated Plastids by Radiolabeling Experiments in the Red Alga *Cyanidioschyzon merolae*」というタイトルでポスター発表を行いました。紅藻には寒天の原料であるテングサやノリなどが含まれ、その名の通り赤っぽい色をしているのが特徴です。私が実験で使っているシアニジオシゾン (*Cyanidioschyzon merolae*) は紅藻ですが、残念ながら赤くはありません。シアニジオシゾンは高温・強酸性の温泉 (実験室では40℃、pH 2.5の条件で培養) に生息している点や、細胞内に核、葉緑体、ミトコンドリアなどのオルガネラを1個ずつしかもたない点など、ユニークな特徴をもっていることから、紅藻のモデル生物としてさまざまな研究に使われています。今回は、シアニジオシゾンの細胞から単離した葉緑体を使って行った脂質代謝の代謝フロー解析について発表し、多くの海外の研究者と意見交換をすることができ、ポスター賞も頂きました。このような機会を与えて頂いたことに感謝し、今後もよりいっそう研究に励んでいきたいと思えます。



ホテルから撮影したマルメの風景 (左) とトリアンゲルン駅の駅前の様子 (右)